

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 「幸せな毎日のために」

南会津町立田島中学校 三年 稲瀬 真由

私は、前から不思議に思っていることがあった。具合が悪くなって病院に行くと、診察してもらったり、薬を処方してもらったりしているのに、母はお金を払っていなかった。ある時、どうしてお金を払わないのか聞いてみた。すると、母は「これがあるからだよ。」

と言って、子ども医療費受給資格証というものを見せてくれた。これを見せることで、医療費の助成を受けることができるそうだ。私の診察でかかった費用は、健康保険とこの助成金によって無料になっていたと分かった。そして、この受給資格証を見ると、有効期間は十八歳までとなっていた。私が高校生になるまで、このような補償を受けられることは、とても幸せだと思った。この補償があることで、子供がいる家庭はいつでも安心して医療機関を受診できるし、子供たちも適切な処置をしてもらい健康に成長をすることができると感じた。

しかし、私にはまた新たな疑問が沸いてきた。この医療費の助成金は、どこが払っているのか。子供がどんどん増えていったら、払えなくなってしまうのではないか。そこで、私は調べてみることにした。すると、助成金は、県や市町村が負担していることが分かった。そして、このお金こそが税金でまかなわれていることを知った。さらに、国がみんなから集めた税金をどのようなものに使うかを示した国の歳出を見てみると、社会保障関係費が、三十二．七パーセントと最も多かった。つまり、年金、医療、介護、子育てなどに多く税金が使われているということだ。私がこれまで、健康で幸せに成長することができたのも、税金による支えがあったからだと感じた。そして、これからの将来のことも安心できる気持ちになった。

父は、仕事の関係で、各学校で租税教室を行っている。父にも税がどんなものに使われているか聞いてみると、コロナウイルスのワクチン接種の費用も税でまかなわれ

ていると教えてくれた。コロナウイルスの感染拡大が収束しない今、無料でワクチン接種ができるということは、とてもありがたいことだ。私の祖父母も四回目の接種をすることができ、安心したようだ。

「税金が高くなる」というニュースを見るたびに、税金に対して悪い印象を持ってしまっていたが、私たちの生活を支えてくれる、なくてはならない存在なんだと気づかされた。一人一人が、税についてしっかりと理解し、日本を支える一員になれるようきちんと納税していければと思った。